

世界を動かすリーダーへ

新渡戸 国際塾



公益財団法人 国際文化会館
International House of Japan

第七期塾生募集要項

広い視野と公益の精神を もったリーダーを育てる

2030年の 世界を考える — 世界のために 何ができるか —

これらは、第一期から第六期までの
講師が塾生へ投げかけた言葉です。

“イノベーション”を
起こすのに最も大切なものを
一つだけ教えてください。

文化力を競い合う21世紀の
世界において、
日本はどのような“役割”を
果たしていくのか。

資源のないわが国が
人材をもっと大事にしないならば、
いったい
“何”を大事にするのか。

“仕事”とは、自分のためではなく、
誰かの本当の苦しみを解決するためであって、
そこに大きな意義があると思うんです。

今の日本人は、
幕末の人間がもっていた
“Integrity”を
なくしてしまったのではないか。

あなたなら、どう考えますか？



新渡戸国際塾とは

国 際文化会館は、日本ならびに日本人の国際的な存在感が希薄になっている現状に鑑み、次世代を担うリーダー育成のために「新渡戸国際塾」を2008年に開校しました。

本 塾では、「国際性」と「リーダーシップ」という大きなテーマのもと、講師陣の豊かで先駆的な生き方や専門性から、多様な考え方や視点点を学びます。異なる分野から集まる志高い仲間との切磋琢磨を通じ、忙しい日常からいったん立ち止まって、公私にわたり今後どのような生き方をしていくべきかを考える場、きっかけ、そして材料を提供します。

第 七期新渡戸国際塾では、期を通して「2030年の世界を考える一世界のために何ができるか」について考えます。塾生同士の議論やプレゼンテーション、国内外で活躍する同世代との対話の場を設けるなど、多様な背景をもつ人々との交流を深め、知的格闘する機会を創出します。そして塾生ひとりひとりが、自分たちが今後取り組むべき問題について、多面的かつ多角的に議論することで、広い視野と公益の精神をもってさまざまな問題の理解と解決にあたるために必要な「知力」、「実践力」と「応用力」を養います。

新渡戸稲造とは

1862(文久2)年、南部藩士の三男として、現在の盛岡市に生まれる。札幌農学校を卒業後、東京大学在学中に、アメリカ、ドイツへ留学。帰国後、札幌農学校教授(日本初の農学博士号を受ける)、台湾総督府糖務局長などを経た後、第一高等学校校長、東京帝国大学教授、東京女子大学初代学長を歴任するなど、教育者として活躍。

1920(大正9)年、欧州視察中に、国際連盟事務次長に推薦され、就任。在任中には、国際連盟の国際知的協力委員会(ユネスコの前身)の創設に携わるなど、連盟の発展に寄与した。代表的な著作である *BUSHIDO: The Soul of Japan* (『武士道』)は、日本文化の優れた紹介書として各国語に翻訳され、現在も版を重ねている。



(写真提供: 教文館)

塾長メッセージ



明石 康

新渡戸国際塾 塾長/
国際文化会館 理事長

新渡戸国際塾は、国際文化会館にふさわしい企画だ。国境がこんなに低くなった時代なのに、国際場裏で活躍できる人材が少ない日本の現状は、看過できるものでない。この塾の活動がそうした人材を生み出し、元気づける要因となることを期待してやまない。

大来佐武郎氏がいったように、「国際人」というものがあるとすれば、それは外国の人々と一緒に、違和感なしに自然体で仕事ができる人のことをいうのだろう。国際関係を抽象的に物知り顔で語るのではなく、広く内外でのびのび動き評価される実践型・対話型の日本人が、どしどし出てきてほしいものだ。

「21世紀の日本が生きのびるために
一番大事な仕事がおそらくここにある。」

コーディネーターより



渡辺 靖

コーディネーター/
慶應義塾大学SFC
教授

国際文化会館は、渋沢栄一記念財団とMRAハウスのご支援を得て、2008年に「新渡戸国際塾」を設立し、これまでに89名の優れた次世代リーダーを輩出してきました。各界の第一線で活躍する講師との深い対話を通して「あるがままの世界」と「あるべき世界」への認識を深め、かつ同窓生とのネットワークを通して、塾生の皆さんの今後のキャリア展開の一助になることを期待しています。

「小さくまとまりたくない」という思いを秘めた、志の高い方々を第七期塾生としてお迎えできることを楽しみにしています。

運営委員

- ・近藤正晃ジェームス (Twitter社日本代表・東アジア代表)
- ・千野境子 (産経新聞客員論説委員)
- ・平林国彦 (UNICEF東京事務所代表)
- (五十音順) ・渡辺靖 (慶應義塾大学SFC教授)

第七期講師陣

第1回 6月21日(土)

開講式&オリエンテーション

第2回 6月28日(土)

『武士道』と日本人

山本 博文

東京大学史料編纂所教授

公開



新渡戸稲造とはどんな人物だったのか。「国際人」だからこそ書いた『武士道』を通して、その生き方や精神を深く学びます。

第3回 7月12日(土)～13日(日)

奈良スタディツアー

【7月12日(土)】

森本 公誠 東大寺長老

【7月13日(日)】

大野 玄妙 法隆寺管長

ほか



森本 公誠



大野 玄妙

第4回 7月26日(土)

リーダーシップで一番たいせつなこと

撥木 崇史

新渡戸国際塾第四期生
株式会社BOLBOP代表取締役CHO
一般社団法人まちの誇り代表理事

公開



新渡戸国際塾修了生である氏が、リーダーシップにおいて重要だと考える「行動重視」「理念重視」「未来志向」について、自身の経験を基にお話しいたします。

カリキュラム

第5回 8月10日(日)

中国の行方と日本の将来の姿

丹羽 宇一郎

前中華人民共和国駐劄特命全權大使
前伊藤忠商事株式会社取締役会長

公開



世界を中国抜きでは語れなくなる一方で、日本社会は少子高齢化により経済や社会構造に大きな問題を抱えています。豊かで安心安全な日本の将来のために、いま何をすべきか考えます。

第6回 8月23日(土)

渋沢栄一と人づくり

Shibusawa Eiichi and
Human Resource Development

渋沢 雅英 公益財団法人渋沢栄一記念財団理事長



日本資本主義の父、渋沢栄一が力を入れた「教育」への支援活動に注目し、栄一が社会で活躍する次世代の人材をどのように育成したかお話しいただきます。

第7回 9月6日(土)～7日(日)

巨視的に考える2030年の世界

合宿

会田 弘継 共同通信社特別編集委員

千野 境子 新渡戸国際塾運営委員、産経新聞客員論説委員

渡辺 靖 新渡戸国際塾コーディネーター、慶應義塾大学SFC教授



会田 弘継



千野 境子



渡辺 靖

第七期講師陣

第8回 9月20日(土)

インターネット前提社会の構築 —2030年に向けて

村井 純 慶應義塾大学環境情報学部学部長、教授

公開



国内のインターネット環境の基盤を築き「日本のインターネットの父」とも呼ばれる氏に、2030年の世界を見据えたインターネットの可能性と課題をお話いただけます。

第9回 10月4日(土)

「祈る平和」から「創る平和」へ

明石 康 新渡戸国際塾塾長、国際文化会館理事長

公開



経済や金融でグローバル化が進む一方で民族間の対立が激しさを増す今、国連という立場から数々の民族紛争解決に尽力した塾長と、平和を創ることについて考えます。

第10回 10月18日(土)

修了生による企画

一期生から七期生までが集まり、在京外国人と対話します。

第11回 11月1日(土)

国連を伝える仕事

根本 かおる 国連広報センター所長

公開



ジャーナリストを経て国連職員となった経緯や背景、難民問題に取り組む中で、日本人として感じたことをお話しいただき、私たちにできることを考えます。

第12回 11月15日(土)

ゲスト講師を招いての公開講演および討議

公開

カリキュラム

第13回 11月29日(土)

日本が再び世界をリードする日 —文化によるエンパワーメント

近藤 誠一 前文化庁長官、近藤文化・外交研究所代表

公開



文化は個人の潜在能力を引き出し、経済社会を活性化します。国内外から日本を見てきた氏に、文化を活用し21世紀の文明に貢献すべき日本の役割と義務についてお話いただけます。

第14回 12月6日(土)

修了式

修了証書の授与・塾生によるプレゼンテーション

講義時間割

時間	内容	参加者
13:30~14:30	講師による講義	「公開」の回は、 一般公開
14:30~15:00	質疑応答	
15:00~15:20	休憩	
15:20~17:30	講師と塾生による自由討議	塾生のみ

※プログラムや日程は、やむを得ない事情により変更になる場合があります。

公開講座 の様子



講師との 自由討議の様子



募集要項

期 間	2014年6月～12月 (全14回、主に週末13:30～17:30に開催)
対 象	国際的な視野からの社会貢献に関心を持ち、企業、非営利団体、官公庁、研究機関などで最低5年の実務経験がある、40歳以下の方。英語での議論ができる方。職種ならびに国籍は問いません。原則として全回出席できる方。
定 員	15名程度 (願書と小論文による書類審査および面接[日・英]により選考)
受 講 料	72,000円(税込)(スタディツアー、合宿などの実費として)

応募要領

以下の応募書類を、事務局まで郵送またはメールしてください。

願 書*	所定書式を「新渡戸国際塾」ウェブサイトからダウンロードしてください。
小 論 文	日本語2,000字以内または英語1,000-1,200 wordsをA4用紙に印字すること。 なお、日本語で作成の場合、英語の要旨(250-300 words)を、英語で作成の場合は、日本語の要旨(500字以内)を添付すること。
テ ー マ	世界規模の課題に対して、10年後までにどのような貢献をしていきたいか、またそのために今、何をしているかについて、自分自身が人生を通して世の中のために何を成し遂げたいと考えているのかにも触れながら書いてください。

応募書類送付先

郵 送:〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16
E-mail:nitobejuku_ihj@i-house.or.jp
国際文化会館 企画部「新渡戸国際塾」事務局

*願書(所定書式)は「新渡戸国際塾」ウェブサイトからダウンロードできます。
書類のダウンロードができない環境の方には郵送します。事務局までご連絡ください。

選考要領

願 書 締 切	2014年5月8日(木)17:00必着
書 類 選 考	書類選考通過者には、5月23日(金)頃までに面接日をお知らせします。
面 接	5月31日(土)、6月1日(日)のいずれか(国際文化会館にて実施)
塾 生 決 定 通 知	選考の最終結果は、6月6日(金)までにお知らせします。

説明会

3月13日(木)および4月9日(水)の19:00より
国際文化会館にて説明会を実施します。

参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。両日とも同じ内容です。

応募・選考に関するお問い合わせ

公益財団法人 国際文化会館
企画部(担当:笹沼・井上) / 月～金 9:00～17:00
〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16
電話: 03-3470-3211 FAX: 03-3470-3170
E-mail: nitobejuku_ihj@i-house.or.jp
URL: <http://www.i-house.or.jp>

「新渡戸国際塾」ウェブサイト
<http://www.i-house.or.jp/programs/activities/nitobejuku/>

国際文化会館とは



公益財団法人国際文化会館は、日本と世界の人々との間の文化交流と知的協力を通じて国際相互理解の増進をはかることを目的に、1952年にロックフェラー財団をはじめとする内外の諸団体や個人からの支援により設立された非営利の民間団体です。

樺山愛輔、前田多門、高木八尺(やさか)、松本重治など、会館の創設に中心的な役割を果たした人々の多くは、旧制第一高等学校、国際連盟「国際知的協力委員会」、太平洋問題調査会などを通じて、新渡戸稲造博士から大きな感化を受けました。

創設者たちと新渡戸博士の強い精神的絆は、今日に至るまで国際文化会館の底流として受け継がれてきており、本塾を「新渡戸国際塾」と命名しました。

地図・アクセス



- 都営大江戸線 麻布十番駅(7番出口)より徒歩5分
- 東京メトロ南北線 麻布十番駅(4番出口)より徒歩8分
- 東京メトロ日比谷線 六本木駅(3番出口)より徒歩10分